福島「おおざそう工場」

200人体制 きょう始動

採用・通勤バスで市と協力

日東工器は福島市に建設し、5月30日に完成した新工場「おおざそう工場」を1日稼働する。効率化と工場建屋の老朽化を理由に、山形市と福島県白河市のグループ2社の工場から既存設備を順次移設。最新鋭の設備も導入し、7月中旬からの生産開始を目指している。立地経緯や雇用に対する考え方などを小形明誠社長に聞いた。

□ □

―新工場を福島市内に決めた理由は。

「開発や生産のノウハウを重視した。機械工具を生産していた山形、主として機械工具と建築機器を生産していた白河の両工場には生産技術が蓄積している。生産技術は要だ。さまざまな理由で地元にとどまる選択をした従業員もいたが、2工場の従業員全員が新工場で継続して働いてもらいたかったことから、両工場のほぼ中間にある福島市を選んだ。福島市が立地に熱心だったことも決め手の一つになった」

―先行して6月2日に従業員が勤務を始めました。交通の便は。

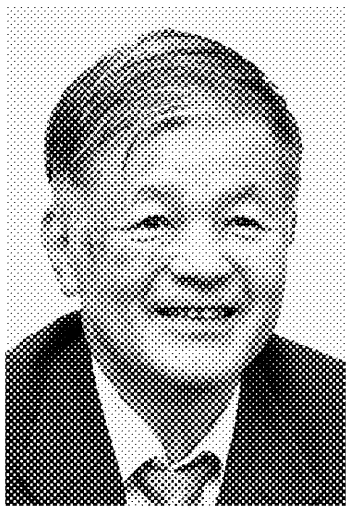
「新工場は福島大笹生インターチェンジ（IC）近くにある。自宅通いの従業員だと90分程度かかる人も多い。そこで道の駅が真横にあるので、通勤時はそこまでバス路線を伸ばしてもらった。通勤バスは山形と白河から毎日運行している。福島市への移住を選択した従業員には社宅を用意。やはり福島市に朝と晩にバス路線を伸ばしてもらった」

―生産を支える人員体制は。

「どこの企業も人手不足の中、新工場での従業員の採用に苦労すると思っていたが、福島市の担当者が工業高校や大学を一緒に回るなど協力してくれて、十分な従業員を確保できた。キャリア採用を含め、地元から新たに50人程度を雇用した。およそ200人体制で生産に当たる」

―工場は隈研吾建築都市設計事務所の監修による曲面屋根が特徴の外観デザインです。

「従業員が誇りに思える工場を建てたいと思い、学生時代の友人の隈氏にお願いした。隈氏はこれまでに工場のデザイン経験はなく、当社の工場デザインを初めて手がけてもらった。景色との調和も考えてくれた素晴らしいデザインだ」



日東工器社長 **小形 明誠氏**

記者の目

ロボ導入、生産の好循環構築

日東工器は今後、ロボットを使った自動化や脱炭素に資する製品化のニーズを取り込んで生産拡大につなげる意向だ。新工場の生産ラインに自社製品を導入し、より良い製品化に向けてさらに改善していく。売上高の増加、工場の自動化、生産性の向上の好循環で勝ち筋をつくれるかが一つの焦点となる。

（南東京支局長・山谷逸平）

無断転載・複写禁止 ㈱日刊工業新聞社